

1 小学校二年生までに学習した漢字から出題している。①「宏大」は「高大」などの同音のことはを書かないように気をつけたい。②「切に」は「強く思うようす」という意味である。右側を「力」にしない。③「年頭」は字のとおり「年のはじめ」という意味である。「頁」の部分の一画目と二画目をつづけて書かないようにする。④「生」の一画目と二画目、「活」の四画目と五画目をつなげて書かないように気をつけたい。⑤「百聞」はむずかしいが、「聞」を「ブン」と読むのは「新聞」で知っているし、「一見に」もヒントになる。なお、「百聞は一見にしかず」はことわざである。

2

1 A 海の深いところのようすについて「水圧が大きく」「光が届かない」となっていることからウの「また」がはいる。
B (B)の前では、ふつうの「魚」はうき袋を持っていると書いているが、(B)の後では、「多くの深海魚」はうき袋を持っていないと書いているのでエの「しかし」がはいる。
C (C)の前に、「わざわざ深海で暮らす」とする生物は少ない」とあり、つづけて「逆にいえば」とあるので、この後では深海で暮らすことの長所について書かれているだろうと考えられる。

2 ①の前に「わざわざ深海で暮らす」とする生物は少ない」とあり、つづけて「逆にいえば」とあるので、この後では深海で暮らすことの長所について書かれているだろうと考えられる。
3 「弱肉強食」は生き物が話題になっている文章ではよく出てくる四字熟語である。意味もあわせて覚えておこう。
4 「大きい水圧に耐えられる構造」を持っている深海魚とほかの魚とのちがいは「うき袋を持っている」るかいないかであった。
5 「うき袋」がつぶされてしまうのはどんな場合かを考えればよい。周りの水圧がうき袋の中の圧力より大きい場合である。ところが「大きい」では④にうまくあてはまらないので、にたことをさがすと本文のはじめのほうに「大きく」が見つかる。

6 ア (B)の後に「多くの深海魚はうき袋を持っていません」とある。「すべての」は言いすぎである。
イ 水圧が高いことだけでなく、光が届かなくてとても暗いことも生物が深海で生きにくい理由だった。
ウ 最後の段落に書いていることは深海魚のことである。

3

1 A 「山のように」はものごとがたくさんあるようすをたとえたことばである。
B 「目がまわる」はたいへん忙しいという意味である。

2 I 「骨を折って働くのが大嫌い」な兄弟三人が相談していたのは「どうかしてからだを動かさないで、お金儲けをする工夫はないものかしら」ということばであった。

II 「相談」がきまって「三人が一緒にならんで、かたはしから土を掘ろう」ときまったことからアをえらばばよい。
3 直後に「正直にしんぼうして働くのをいやがるような人」とあるが、これは兄弟たちのことである。あとは同じような意味のことばをさがすと、本文最後の段落に「働きざらい」ということばがある。

4 a 金貨の壺を畑にうめたというお父さんのことばに驚いている。直後で「お父さん、そ、それはどのへんにあるんですか？」とたずねているが、「そ、それは」という言い方からも驚いてうろたえていることが感じられる。
b 直前の「おかしな話だな」や直後の会話の終わりにある「変だなあ」から、金貨の壺が見つからない怒りよりも疑問のほうを読みとれる。

5 「正直にしんぼうして働くのをいやがる」くせに「お金儲け」をしたがる息子たちに残したことで、息子たちはそのとおりにしてお金を儲けたのであった。息子たちがお父さんに言われたのは「土を掘りなさい」つまり「一生懸命に働き」なさいということであった。